



「追い出したい鬼は何ですか？」
『イライラ鬼！』、『泣き鬼！』
と言う声が聞こえる、かがやき教室

令和7年 2月 21日 (金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき
学級通信 NO. 17

「かがやき教室」 よもやま話



「生活・総合発表会」「連光寺小学校開校50周年行事」など忙しくもある中、子供たちの自分なりの成長を見ることができました。今日は日々の中からミニエピソードとして紹介します。

① 発表会やたくさんの人の視線が苦手な2年生A君。今年の「生活・総合発表会」はヘルプカード（イラスト付きの援助要請カード）のアイテムも手に入れ、朝から学校に来ることができました。「発表が終わったらかがやき教室に休みにいく！」と話していましたが、前半の見学、後半のグループの発表をこなし、結局かがやきの教室に来ることはありませんでした。発表見学の途中、緊張で固まってしまった1年生を見て「オレ、あいつの気持ちがわかる」と話していました。以前のA君自身も自分苦手感からこの手の行事は登校段階からNGでしたが、今年の参加状況から2年越しの成長を大きく感じました。

② 5年生B君が指導時間の確認にきました。「あの、今日のかがやきの時間、クラスで明日の発表のリハーサルがあるので、どちらに参加したらいいですか？」なるほど、明日が本番でもあるということと、自分のグループ発表のリハーサル後に授業に参加する旨を担任の先生に確認して欲しいと伝えると、その後、担任の先生の許可をもらい授業に参加しました。「報告・連絡・相談」の話はそのつど伝えしていましたが、その内容を実践した形となりました。

③ 「生活・総合発表会」での1年生のC君。まだ読字に課題があり、タブレットの字を読むことが難しい状況でした。すると担任の先生の一工夫。同じグループの中のDさんがC君のプレゼン内容を先に範読し、聞き取りが得意なC君が聞き取り発表するという形をとっていました。担任の先生の「柔軟な発想」でD君が発表できている姿に「なるほど！こうしたやり方もあるんだ」と納得する場面でした。

学校の中の子供の成長は本当に人それぞれ。すぐに答えは出ないことをわかっているつもりでも、学習の平均的修得の物差しで測ってしまうこともありますね。でも、やはり数年単位の視点で成長を見ていくことが大事なんだろうなあ。と日々のミニエピソードから強く感じました。



学校公開時の 「特別支援教室・教室公開」



学校公開の際に「かがやき教室」の指導ポイントや教材についての公開を行いました。「特別支援教室」ではどんなことを学んでいるのか。また、自分の「気持ち」や「感覚」に気が付いたり言葉にしたり。「相談」のスキル身に着けていくことの大切さについての掲示やミニ相談を実施しました。今後も必要に応じて情報を発信していきたいと思います。

かがやきの指導について ～このような指導をしました～



<低学年>

- ・ふわふわ言葉
- ・なべなべ／ならんでならんで
- ・気持ちと感覚
- ・振り返り／みんなで演習

<中学年>

- ・カードゲームを通した演習
- ・出来事から感じる気持ちを言葉にする
- ・言葉で伝える

<高学年>

- ・身の回りの事を説明する
- ・思っていることを整理する
- ・他者の悩みに耳を傾ける／助言をする

3月は、学習のまとめをしていきます。